

目 次

総合人間自然科学研究科 農学専攻

NO	氏 名	題 名	
1	小林 智子	災害時炊き出しの担い手に関する課題とその解決に向けての実践—自主防災組織と食生活改善推進員に着目して—	1
2	主原 加菜	高知県内の土地改良区の現状と動向に関する研究—山田堰井筋土地改良区を事例として—	2
3	中辻 伸嘉	マダイ筋肉コラーゲン含量と同分子代謝関連遺伝子発現量の関連性	3
4	阿部 翔太	次世代シーケンサーを用いた底生性有毒渦鞭毛藻の群集組成の解明	4
5	石間 裕人	インドネシア国における熱帯産デンプン蓄積ヤシ類の生育特性およびデンプン生産性に関する研究 —サトウヤシおよびタラバヤシ—	5
6	岩崎 弘晟	熱帯性タケ類の群落構造は土壤肥沃度を向上させる—タイ北部チーク植林地における事例—	6
7	内山 貴雄	県産酒類の品質向上に関する研究	7
8	大黒 司貴	ブリ腸内細菌叢に関する基礎的研究	8
9	大橋 奈奈	システインデスルフララーゼが関わる硫黄転移反応の解析	9
10	小川 智子	チーク植林木の成長に影響を及ぼす環境要因に関する研究	10
11	小川 大貴	土壌の間隙構造が硬度、透水係数、強度に与える影響について—畦畔、法面への適用—	11
12	川勝 正貴	ディーゼルエンジンにおける樹木精油添加燃料の影響	12
13	木下 あゆみ	イタドリ (<i>Polygonum cuspidatum</i>) 葉抽出物中の抗アレルギー成分の解明	13
14	葛間 秀徳	ワタアブラムシの寄主転換に関する化学生態学的研究	14
15	栗原 董	高分子抗菌構造体の抗ウイルス効果	15
16	河野 まどか	高知県浦ノ内湾の造成カジメ海中林に出現する魚類群集の構造	16
17	SYED MOSTAFIZUL HAQUE	Study on organogenesis of <i>Cymbidium</i> orchid <i>in vitro</i> culture	17
18	島崎 祐樹	日本及びその周辺に産するギンヤンマ属4種の生態学的研究	18
19	志水 謙太	組換えエクルマエビクラスタシアニンを用いた甲殻類色彩多様性の検討	19
20	瀬尾 晃平	植物の生理活性物質に関する研究	20
21	高橋 詩織	カヤの実に含まれるガン細胞増殖抑制物質の探究	21
22	田邊 貢穂	四国のギボウシの生態と組織培養に関する研究	22
23	都甲 満	散水ろ床型下水処理装置における硝化性能の評価	23
24	長井 宏賢	落葉広葉樹林と常緑広葉樹林における林冠節足動物の土壤分解系への影響評価	24
25	中岡 広子	オゾンを活用した使用済み紙おむつの新規リサイクル技術の開発	25
26	西原 爽和子	沖縄産マメ科植物エキスの抗乳がん作用	26
27	白米 優一	立体規則性ポリ-γ-グルタミン酸を用いたレア金属吸着に関する研究	27
28	橋本 隆弘	ELISAによる農産物中のオスモチン定量法の開発	28
29	橋本 唯	インドネシア・西カリマンタン州S村における薬用植物利用とその知識の検証	29
30	羽二生 綾	高知県産有用植物に含まれる生理活性物質の単離と構造解析	30

NO	氏 名	題 名	
31	平井 千瑛	土着天敵クロヒョウタンカスミカメの生物的防除資材としての有効性に関する研究	31
32	福嶋 和貴	ゼブラフィッシュ卵子における高浸透圧による傷害の低減の試み	32
33	福島 将太	沙地修復を目的とした低木類の分布と土壤微環境因子の関係解明	33
34	堀澤 良円	仁淀川上流域におけるアマゴの遺伝的多様性	34
35	松本 泰明	ブリにおける大豆タンパク質の嗜好性と栄養価の改善	35
36	宮奥 晴菜	<i>Burkholderia</i> sp. HME13のエルゴチオネイン代謝経路の推定と代謝関連酵素の諸性質	36
37	森 大記	土構造に基づいて作設する林内道路の施工管理	37
38	森本 ゆかり	高知県産未利用植物の機能性解明	38
39	山崎 憲一	高知県二級河川鏡川のアユ (<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>) を対象としたアユ冷水病の疫学調査	39
40	山崎 直哉	地震と津波に耐える構造物基礎材料の研究	40
41	吉岡 憲弘	海岸地における植物の環境適応戦略	41
42	渡辺 裕磨	導水トンネルが淡水魚の遺伝的攪乱に及ぼす影響	42